

主 題：キリストは必ず再臨される 3

聖書箇所：ペテロの手紙第二 3章11-13節

先日、91歳になられる宣教師のことを聞きました。どのようにして彼が日本に来るようになったのか？ある人がこのように私に伝えてくれました。彼は主から「あなたはわたしのことばを信じるか？」と迫られた。その時に彼は「はい」と答えた。すると主は「わたしのことばに従え」とそのように語られたように思ったとのこと。それですべてを捨てて主に従おうと決心した。そして、日本に来たと。

信仰者の皆さん、結局このことではありませんか？あなたはこの聖書が神のことばだと信じていますか？これは神のことばであり、ここに記されていることは必ずその通りになります。あなたは心からそのことを信じていますか？もし、あなたがそのように信じているなら、このみことばが教えるのです。今日、私たちが見る箇所でペテロが教えるのです。それは、信じているならそのように生きなさいということです。神が私たちにくださったこの聖書が教えるようにそのように生きなさいと言います。神があなたや私を用いるかどうかはすべてそこに掛かっていると思いませんか？神が喜んでお用いになる人は、神のことばを信じ、神を信頼し、そして、従い続けた者たちです。どの時代でも、どこの国においても、神はそのような信仰者を使って来られました。どんな働きをするかではありません。どのように生きるかです。私たちが信じているならそのように生きることです。

ペテロはこの手紙を通して、「この天地は必ず滅びる」ということを教え続けています。特に、この3章に入って、私たちはそのことを繰り返し見て来ました。しかし、この「天地が滅びる」ということはペテロが初めて教えたのではなく、主イエス・キリストご自身がそのことを教えておられます。マタイの福音書24：35に「この天地は滅び去ります。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。」とイエスは言われました。そして、ペテロもそのことを繰り返しています。問題は、私たち信仰者がそのことを信じているかどうかです。心からそのことを信じているかどうかです。もし、信じているなら、今日、ペテロが私たちに教えてくれます。次のように生きていきなさいと…、それを実践することです。

3：11のみことばは「このように、これらのものはみな、くずれ落ちるものだとなれば、…」と書かれています。「これらのものは」とは、すでに学んで来たように、この天と地のことです。そこに存在するすべてのものです。それらは「くずれ落ちる」と、すべてのものは崩壊すると言います。そのことはすでに10節で見て来ました。「10 しかし、主の日は、盗人のようにやって来ます。その日には、天は大きな響きをたてて消えうせ、天の万象は焼けてくずれ去り、地と地のいろいろなわざは焼き尽くされます。」と。そして、この11節でも同じことを教えています。「天地の滅び」がここでも繰り返されています。

なぜ、ペテロはこのことを繰り返すのか？その理由は11節のあることばによって知ることができるのです。それは「どれほど」ということばです。この代名詞、このことばはペテロがこの手紙の読者たちに対してどんなことを願っていたのか、そのことを明らかにします。このことばをギリシャ語の辞典で見ると、この文脈においてこのことばは「称賛に値する事柄が読者たちから当然のこととして期待されていることを暗示している。」と訳されています。こういうことです。このことばが明らかにしているのは、これを聞いた者たちから、信じている者たちから、当然、称賛に値する事柄が出て来ること、彼らが称賛に値する行動をするように生きるようにと、そのことを期待していることばであるということです。

ですから、ペテロがこのようなことばを使ったのは、ペテロはすでに数々の真理をもう一度彼らが思い起こすために教えて来ました。新しい真理というよりも、彼らがもう知っていた真理です。それを思い起こさせることによってペテロが期待したことは、それをただ知っているだけでなく、知った者としてそれにふさわしい価値ある生き方が彼らから生まれて来ることです。彼らがそのように生きることを期待してこのことばを記したのです。ですから、11節の時点から、今度はペテロは「クリスチャンの生き方」へと話を転換していることに気づきます。そして、クリスチャンとして、救われた者としてふさわしい生き方を生きるためには、この「天と地が滅びる」という事実を忘れてはならない、実は、それが「カギ」ということをペテロは私たちに教えてくれるのです。

今から、この11節から13節を見ていきますが、ペテロはここから二つのことを教えます。彼は読者たちを奨励するのです。彼らを励ますのです。

A. ふさわしい生き方への奨励 : 終わりの日にふさわしい生き方 11節

救いに与っている者たちがそれにふさわしく生きていくようにと、そのことを奨励するのです。「終わりの日にふさわしい生き方」を行うように、そして、そのように行っているならそれを継続していきなさいとペテロは言います。では、その「ふさわしい生き方」とはどのような生き方なのか？生き方についてペテロは二つのことを記しています。11節には続いて「あなたがたは、どれほど聖い生き方をする敬虔な人でなければならないことでしょう。」とあり、二つのことは「聖い生き方」であり「敬虔な人」です。ペテロは「終わりの日にふさわしい生き方は、聖い生き方をすることであり、敬虔な人になることだ」と、そのように教えるのです。順に見ていきましょう。

1. 「聖い生き方」をする

「聖い」とは「道徳的に聖い、正しい」ということです。生き方とは「振る舞い、行動、生活」です。ライフスタイルと言った方が皆さんには伝わるかもしれません。そういう意味を持ったことばです。道徳的に聖い、道徳的に正しいライフスタイルを過ごしていきなさい、そのように生きていきなさいと、ペテロはここでそのように命ずるのです。このような生き方は、神によって救われているあなたなら可能なのです。あなたは神の前に道徳的に正しい聖い生き方を実践することができるのです。なぜなら、それが「救いの目的」だったからです。

1) 救われた目的 : 神があなたをお救いになったのは「あなた自身が聖く生きていくため」です。パウロはⅠテサロニケ4:3で「神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。あなたがたが不品行を避け、神のみこころはあなたがたが聖くなることです。」と教えています。罪から離れて聖くなること、それが神のみこころだと言います。そして、同じ4:7には「神が私たちが召されたのは、汚れを行わせるためではなく、聖潔を得させるためです。」と書かれています。もうはっきりしています。神がなぜあなたを救ってくださったのか、召してくださったのか、救いへとあなたを呼んでくださったのか、あなたの名前を名指しで神のもとへと呼んでくださったのか？それはこの目的だったのです。かつてのように、罪の中を歩み、道徳的に汚れたことを継続して行い続ける生活を続けるためではなく、あなたが聖い正しい生活をするために神はあなたを罪の中から召し出してくださいました。それがこのテキストが私たちに教えることです。

ですから、あなたが聖い生活ができるというのは、そのような人へと神によって生まれ変わったからです。そして、あなたが聖い生活をする、正しいライフスタイル、神の前に喜ばれる生き方を継続するというのは、あなたが救われていることを明らかにする証拠です。もちろん、私たちは完璧に罪から離れて正しい生活を24時間、365日できるかと言うと、できないことは言うまでもありません。でも少なくとも、神によって救われた私たちの心には、神が喜ばれる正しいことを行っていきたい、これまでのような、神が背を向けるような神が憎まれるような罪の生活をしたくないという、そのような思いは救われているなら必ず神はあなたに与えてくださっているはずです。

2) 救われた証拠

皆さん、救いというのは「生き方が変わること」です。Ⅰペテロ4:3-5にペテロは面白いことを教えています。「3 あなたがたは、異邦人たちがしたいと思っていることを行い、好色、情欲、醉酒、遊興、宴会騒ぎ、忌むべき偶像礼拝などにふけたものですが、それは過ぎ去った時で、もう十分です。4 彼らは、あなたがたが自分たちといっしょに度を過ぎた放蕩に走らないので不思議に思い、また悪口を言います。5 彼らは、生きている人々をも死んだ人々をも、すぐにもさばこうとしている方に対し、申し開きをしなければなりません。」と、かつては、異邦人たちと同じように罪の中を歩み続けていた。でも、救いに与った途端、生き方が変わったのです。そうすると、今までいっしょに同じことをしていた連中が、生き方が変わったクリスチャンたちに対して悪口を言うのです。「これまで同じことをしていたのになぜ急にしなくなったのだろう？」と。救われた人たち、神が救ってくださった人たちは生き方が変わるのです。ですから、私たちが考えなければいけないことは、救いに与っているなら私は神が喜ばれる、神が命じておられる聖い歩みをしているかどうか？です。もっと言うなら、自分の生活を見た時に自分は本当にこの救いに与っているのかどうか、そこまで私たちは見ることができます。

なぜ、このように聖く生きていくことが大切なのか？もし、あなたが聖く歩いていくなら、あなたはすばらしい証をするからです。すばらしい証があなたを通して成されるのです。実は、このⅠペテロ3章に、妻たちに対する教えの中にこんなセッティングがあります。妻がクリスチャンで夫が未信者です。3:1-2「1 同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。たとい、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものとされるようになるためです。」と、何も言わなくても、妻のそのふるまい行いによって夫は神のものとされると言うのです。どのようなふるまいですか？2節「2 それは、あなたがたの、神を恐れかしこむ清い生き方を彼らが見るからです。」、一生懸命説教することもできます。

でも、残念ながら余り効果はありません。逆効果です。みことばが教えてくれるのは、あなたが神を恐れてそして聖く歩み続けて行くなら、そのふるまいが良き証となるということです。

ペテロは救われた者たちに、神のさばきの日、終わりの日が近いとそのことを信じているのなら、それにふさわしく生きなさいと言います。そして、それにふさわしい生き方とは、聖い生き方であり、聖く歩み続けていきなさいと教えます。

2. 「敬虔な人」となる

「敬虔な人」とは「神に対する恐れを持った人、神を敬う人」です。このことばはどちらかと言うと、行動よりも心の態度、内面的なことを意味しています。先ほどの「聖い生き方」というのは「行動、外面的なこと」です。そして、「敬虔」とは行動ではなくて「内面的なこと」です。ペテロがふさわしい行いだけを記したのではなくて、「心」というものを記しているのは大変重要なことです。なぜなら、「心」が行動を生み出すからです。

・ **良い心は良い行いを生み出す** : 先に見た未信の夫への教えの後半にはこのように書かれています。I ペテロ 3 : 3-4 「:3 あなたがたは、髪を編んだり、金の飾りをつけたり、着物を着飾るような外面的なものでなく、:4 むしろ、柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人がらを飾りにしなさい。これこそ、神の御前に価値あるものです。」と。つまり、外側よりも大切なのは内側だということです。「心の中の隠れた人がらを飾りにしなさい。」と、心が大切だということです。言うまでもありません。正しい心は正しい行いを生み出すけれど、そうでない悪い心は悪い行いを生み出していきます。

・ **悪い心は悪い行いを生み出す** : マルコ 7 : 20-23 に「:20 また言われた。「人から出るもの、これが、人を汚すのです。:21 内側から、すなわち、人の心から出て来るものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、:22 姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさであり、:23 これらの悪はみな、内側から出て、人を汚すのです。」と書かれているとおりです。

だから、* **ダビデ王は心を正しく保つことを心がけた** 彼はこう言っています。皆さんもよくご存じの詩篇 119 : 11 です。「あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。」と。正しくないもので心を満たすのではなくて、正しいことで心を満たすように。この世のくだらないもので心を満たすのではなく、神のことばで心が満たされるようにと。そうして、彼自身も正しい聖い行いを実践しようと心がけていたことが分かります。彼の息子のソロモンもこのように言っています。箴言 3 : 1-3 「:1 わが子よ。私のおしえを忘れるな。私の命令を心に留めよ。:2 そうすれば、あなたに長い日と、いのちの年と平安が増し加えられる。:3 恵みとまことを捨ててはならない。それをあなたの首に結び、あなたの心の板に書きしるせ。」と。なぜ「心」なのか？心が行いを生み出すからです。

* **心に主への恐れが必要** また、ソロモンは箴言 23 : 17 でも「あなたは心のうちで罪人をねたんではならない。ただ【主】をいつも恐れているよ。」と言っています。旧約においても、神に対する恐れが心を満たしているなら、確実にその人の行いはそれを反映したものになると教えています。

もう一つ、この 11 節で見えていただきたいのは最後のことば、「敬虔な人でなければならないことでしょう。」の「ならないことでしょう。」という動詞です。実は、これは「することが必要である、当然である、適当である、～すべきである」という意味です。つまり、ここでペテロが何を望んだのか？それは読者たちがこれからいったいどのようなことが起こるのかという事実をただ知るだけでなく、その事実にもふさわしく生きていくこと、それが重要であるということです。そのことを彼は言いたいのです。神のさばきがやって来ること、あなたはただそれを知っているだけではどうにもならない、それを知っている者にふさわしい歩みをしなさいと言っているのです。なぜなら、私たちはこのすばらしい神のメッセージを、そして、この恐ろしい警告のメッセージを人々に伝えるからです。どのようにして？もちろん、ことばをもって、同時に、私たちはそのように生きることによって伝えるのです。

行動というのはおもしろいものです。いろんなメッセージが伝わって来ます。私は余り電車に乗りませんが、たまに乗ったときに見る光景ですが、学生たちを見ているとあることが分かります。「ああ、試験が近いのだな…」ということは、ノートを開いて一生懸命勉強している様子で分かります。「ああ、試験が終わったのだな…」は、もうだれもノートを開いていない、ワイワイ騒いでいる様子を見て分かります。彼らの行動がそのメッセージを伝えるからです。ペテロが私たちに教えるのは、あなたの行動はどうか？ということです。あなたの行動は、あなたが信じていると言う神の真実を明らかにする行動かどうか？です。

ヨハネはヨハネ第一の手紙の中でこのように言っています。2 : 6 「神のうちにとどまっていると言う者は、自分でもキリストが歩まれたように歩まなければなりません。」と。とても重いことばです。つまり、クリスチャンだという人たちは、キリストが歩まれたように歩むべきだと。ずっしり来ませんか？もしかすると、自分には無理だと言って、自分の生き方をそのまま継続することを良しとしたかもしれませ

ん。しかし、聖書はそう言っていません。神はそのように言うておられません。「主イエス・キリストが歩まれたようにあなたも生きなさい。」です。なぜなら、イエス・キリストは私たちに模範を示されたからです。

皆さん、私たちが信仰者として生きる生活、人生、私たちは周りの人たちにあることを伝えたいのです。それは私たちの神についてです。こんな偉大な神がおられるということです。この神はこんなにすばらしい愛をもっておられる、この神は私たちを赦してくださいと。そのために、みことばが教えることは、もし、私たちクリスチャンが互いに愛し合っているなら、そのメッセージは人々に伝わるということです。ヨハネの福音書 13 : 35 にそのように書かれています。「もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」と。

ということは、もし、私たちが教会に集まった時に、兄弟姉妹が互いに愛し合っているなら、そこに入って来た主を知らない人たちは、私たちが愛してくださいと、そして、彼らを愛してくださいと神を知るようになるのです。もし、私たちが互いに赦し合っているなら、すばらしい神のメッセージを周りの人たちに伝えることとなります。イエスがマタイの福音書 6 章、山上の説教の中でこのように言うておられます。6 : 14 - 15 「:14 もし人の罪を赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してください。:15 しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの罪をお赦しになりません。」、みことばが私たちに教えるのは、私たちは赦された者として互いに赦し合っていくことです。でも、もし、私たちがクリスチャンと言いつつながらだれかを憎んだり嫌っていて「あの人のことを赦さない」と言っているなら、悲しいことですが、神の栄光を現すことはできません。なぜなら、みこころに反することを選択しているからです。

私たちは自由人として神がお喜びになることを自分の意志をもって選択します？そうして生きていきます。神によって愛された者であるゆえに、神が愛しておられる人たちを愛していこうと、それは罪に妥協することでも真理に妥協することでもありません。でも愛を持つことができます。赦された者として互いに赦し合っていくのです。そうすることによって私たちは、このような神がおられるということを知っているのです。私たちにほばない希望があります。どんなことが起ころうとも、私たちは希望を失うことなく生きていくことができるという希望です。

ペテロは I ペテロ 3 : 15 で「むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求め人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしておきなさい。」と教えています。だから、周りの人たちは私たちが希望をもって歩み続けているなら「なぜ、この人はこんな状況で希望を持ち続けることができるのか？なぜ、こんな状況で平安を持っているのだろうか？」と私たちの持っている希望に関心を払います。私たちは希望を持って歩み続けることが可能になっているのです。

最近では悲しいニュースが多いですが、ドライバーが感情のコントロールができずに悲しい事故が起きました。車に乗っている時に感情をどうコントロールするのか？いろんな専門家が出て来ます。こんな専門家がいるのかと驚きますが、聖書を見るなら、もうちゃんと教えているではありませんか。私たちはもうそのことを学んでいます。どんな状況にあっても、神が喜ばれることは何かを考えてそれを選択するなら、感情によって左右されることはないのです。感情をコントロールできないのは、それを赦してしまうからです。お分かりでしょう、皆さん。もし、私たちがどんな状況でも、確かに、危険な車が私たちの前に入って来るかもしれない。でも、その時にいろんな選択肢がある中で、いったいどの選択肢が神の前に喜ばれるのかを考えてそれを選択するなら、その瞬間に、一瞬持ったかもしれないその怒りから解放されます。みことばはちゃんと私たちにどうすればいいのかを教えてください。

でも悲しいことに、私たちはこのような神が教えてくださる真理を自分の生活の中で適用していないのです。実生活に生かされていない、日常生活にみことばが反映されていないのです。違いますか？聖書の箇所は知っているしみことばは知っている。でも、実生活と余りにもかけ離れているのです。それが私たちの問題だと思いませんか？少なくとも、このみことばが我々に教えてくれるのです。あなたも私も救いに与っているなら、そして、この神の真理を信じているなら、それにふさわしく生きていくことです。

子どもたちや青年たちが歌うゴスペルソングの中に「みことばにとどまり愛に生きるなら、この世は知るでしょう、主の救いといやし」と、そんな歌詞があります。真理を歌っています。もし、私たちがみことばにしっかり留まって愛を実践するならこの世の人たちは知る、「主の救いと主の癒し」を。そのことを私たちは人々に証するために、自らの行動、自らの歩みに注意を払って生きなければならないのです。ですから、最初にペテロが教えることは、「聖い生き方をする敬虔な人になりなさい。心を正しく持ちなさい。神を恐れるその心をもって神が喜ばれる正しいことを行っていきなさい。」です。

B. 勤勉さへの奨励 12 - 13 節

ふさわしい生き方を奨励するだけでなく、ペテロはここで「勤勉さ」に対しても奨励を為すのです。

1. 「神の日」への備え 12節

12節「そのようにして、神の日の来るのを待ち望み、その日の来るのを早めなければなりません。その日が来れば、そのために、天は燃えてくずれ、天の万象は焼け溶けてしまいます。」、

・「その日がくれば」：最初に見ていただきたいのは後半にあるこのことばです。これは新改訳聖書の訳者たちがこの箇所の意味を明確にするために補足したものです。原語にはこのことばはありません。

・「そのために」：これは「理由や原因を現わす前置詞」です。この前置詞を使うことによって、ペテロは私たちに次のことを教えようとしたのです。「神の日の来るのを待ち望み、その日の来るのを早めなければなりません。」と言って、その理由は「天は燃えてくずれ、天の万象は焼け溶けてしまいます。」と続くのです。つまり、「天は燃えてくずれ、天の万象は焼け溶けてしまう」、だから、次のように備えをしていなさい、すべてが滅んでしまうのだから、あなたがたは次のような備えをしなければならぬと教えるのです。それは「神の日」への備えです。二つのことが書かれています。「待ち望むこと」と「早めること」です。

1) 待ち望む：神の日の来るのを待ち望み

先ず説明しておきたいのは、「神の日」ということばです。

・「神の日」と「主の日」：10節では「主の日」とありました。同じことを指しているのか？実は、違います。「主の日」はさばきでした。主イエス・キリストが地上に帰って来られる。その時に神のさばきがあるのです。そして、イエス・キリストが千年王国の終わりに、再び神の敵である罪人たちをさばかれますが、その日のことを「主の日」と呼んでいたのです。では、この「神の日」とは何のことでしょう？それは、神がすべての敵に完全に勝利した時にもたされる永遠の状態のことです。神がすべての敵を滅ぼされたその後の状態です。黙示録21章と22章に書かれています。黙示録20章に書かれているのは「大きな白い御座のさばき」です。そして、その後の21、22章に出て来るのは「新天新地」です。

ですから、「主の日とはさばきのこと」であり、「神の日」とは、さばきがもう終わり、神がすべてを滅ぼされた後の永遠の状態のことです。このことについて詩篇110：1に「【主】は、私の主に仰せられる。「わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまでは、わたしの右の座に着いていよ。」とあります。実は、ペテロはこのことばを引用してこのように語っています。使徒の働き2：33-35です。「：33ですから、神の右に上げられたイエスが、御父から約束された聖霊を受けて、今あなたがたが見聞きしているこの聖霊をお注ぎになったのです。：34 ダビデは天に上ったわけではありません。彼は自分でこう言っています。『主は私の主に言われた。：35 わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまではわたしの右の座に着いていなさい。』」と。すべての敵を滅ぼすまで私の右の座に着いていなさいと、つまり、すべての敵を滅ぼすときが来るということです。「神の日」はそれが起こった後のことです。また、ヘブル10：13には「それからは、その敵がご自分の足台となるのを待っておられるのです。」と書かれています。すべての敵が完全に滅ぼされ、それが起こった後、「神の日」が訪れるのです。

・「神の日の来る」：このことばは皆さんもお聞きになったことがあると思います。私も説明したことがあり「パルーシア」というギリシャ語を使っているのですが、これは「姿を見せる、出席する」という意味を持ったことばです。新約聖書では特に重要な人の訪問に使われることばです。そこで新約の著者たちはこのことばを「主イエス・キリストの再臨」に用いるようになったのです。なぜなら、主イエス・キリストは最も重要なお方だからです。その方がお見えになることを「パルーシア」というギリシャ語を使ったのです。それがここで「来る」と訳されています。ですから、主イエス・キリストが栄光をもって来られるということです。そして、その時にすべての敵を滅ぼされて、すべてを新しくされるのです。さて、その上で、どのようにこの「神の日」に備えるのか？

・「待ち望み」：「待ち望む」とは「その日が訪れるのを心待ちにすること」です。今か今かと待ち焦がれている様子です。ちょうど、楽しみにしているお客さんが早く来ないかと待ち焦がれている様子、つま先立ちをして「まだ来ないかな…」と待っている様子です。そういうことを表すことばです。

そして、主イエス・キリストの再臨を待ち望むというのは、これも実は、神の救いに与った人たちの特徴です。今は時間がないのですべての箇所を読むことはできませんが、Iペテロ1：3にも「私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちを新しく生まれさせて、生ける望みを持つようにしてくださいました。」、Iテサロニケ1：9、10「：9 私たちがどのようにあなたがたに受け入れられたか、また、あなたがたがどのように偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり、：10 また、神が死者の中からよみがえらせなされた御子、すなわち、やがて来る御怒りから私たちを救い出してください

るイエスが天から来られるのを待ち望むようになったか、それらのことは他の人々が言い広めているのです。」と同じことが書かれています。

救いに与った者たち、神が救ってくださった人たちの特徴は、主イエス・キリストにお会いすること、その生ける望みを持つ者へと変えられることです。ですから、クリスチャンとはみなイエスにお会いする日を楽しみにしている者たちだと言うことができます。皆さんもそうでしょうか？早くイエスにお会いしたい。あなたを愛していのちを捨てて救ってくださった主に早くお会いしたいと、その思いを持っているのです。イエスにお会いすることを待ち望んでいるのはなぜか？「救いに与っているから」です。

ですから、ペテロが教えることは、神の日の到来に備えた生き方とは、愛する主にお会いすることを日々切望しながら、与えられた日を生きていくことです。「もしかすると、今日、私は主にお会いするかもしれない」というその思いをもってその日を過ごし、その日がそのまま終わってしまつて次の日を迎えるなら、その日も同じように「もしかすると、この日に主にお会いするかもしれない」と思いながら日々を過ごして生きなさいと、そのように教えるのです。

ペテロ自身はそのことを教えるとともに、そのような思いを持って生きていたはずですが、パウロ自身もその思いを持って生きていたことはみことばによって明らかです。信仰者はみな、そのように生きています。「今日がその日かもしれない」という思いです。これが一つ目です。二つ目は、

2) 早める : その日の来るのを早めなければなりません

この「早める」という動詞は「急ぐ、熱望する、また、促進する、加速する」という意味があります。ペテロはその日の到来が今日かもしれないという、切迫感を持って生きるということをお説きだけだけでなく、その日が来るのを促進するように加速するようにと教えるのです。どういう意味でしょう？

私たちは神がお定めになったご計画を、神のご意志を変えることはできません。旧約聖書には「神は思いとどまれた」という表現が出て来ますが、それは神がどんなお方であるかを私たちが分かるような表現を使っているにすぎないのです。神のご意志を変えとなれば、神のご意志は正しくなかった、最善ではなかったということです。神は永遠から永遠に存在され、神のご計画は常に最善であり完璧なのです。神のご意志を変える必要などありません。完璧だからです。ですから、私たちはその神のご意志を変えるようにと教えられているのではなく、この神のご計画が促進するようにということです。

説明します。そのために私たちは文脈を見なければならぬのですが、あざける者たちがやって来て、彼らはキリストの来臨について非難します。「そんな約束があると言うけれど何も変わっていない」と言って彼らは非難するのです。そこでペテロは、では、なぜこの約束が延期されているのか？そのことをこのように言っています。3：9「主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるのではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。」と。神はひとりでも多くの罪人がこの救いに与るようにと忍耐をもって待っていると、これが神のみこころであるということです。

それなら、私たちはこの神のみこころを促進することができます。福音宣教によってです。神が何を望んでおられるのか？一人でも多くの罪人が悔い改め救いに与ることです。それなら、私たちは益々、その働きに積極的に参加することによってこのみこころを促進することができます。そのことをペテロは私たちに教えるのです。エドモント・フィーバートという先生はこのことばについてこのような説明をします。「神の目的のさらなる前進のために用いられる道具となること」と。それがここで言わんとしていることだと言われるのです。

私たち信仰者は神が何を望んでおられるのか、一人でも多くの罪人が悔い改めてこの救いに与ること、それなら、私たちもその働きのために益々用いられる者として、自らをささげるその働きに邁進することだと。それが「神の日」の到来を知っている者として、その日に備えた生き方であるとペテロは私たちに教えてくれるのです。この天と地はすべて滅んでしまいます。ということは、そこに生きている神の敵も滅んでしまいます。そして、永遠の地獄へとってしまうのです。そのことを知ったなら、私たちはもっともっと、滅びに向かっている人たちに対して、この救いをこの福音のメッセージを伝えたいと思います。その日が来るのです！後戻りできないのです。それはもう永遠の滅びに至るのです。その永遠の地獄の門は開かれて、こうこうと燃える火がそこに燃え盛っている。そして、愛する者たちがそこに向かっている現状を知って私たちは何をしますか？少なくとも、私たちにできることは、彼らのために祈り、このすばらしい救いを伝え続けることです。まさに、ペテロが励ますことはそのことです。「神の日」への備え、それはその日の到来を待ち望みながら生きることであり、また、このすばらしい福音を宣べ伝え続けていくことです。

2. 「神の日」という希望 13節

13節「しかし、私たちは、神の約束に従って、正義の住む新しい天と新しい地を待ち望んでいます。」、ここでペテロは、私たちクリスチヤンの希望は「主の日」であると教えていません。私たちクリスチヤンの希望は「神の日」であると教えています。なぜなら、「主の日」とは「さばき」だからです。私たちはそのさばきを待望しているのではありません。私たちが待望しているのは、その後にある「神の日」、「新天新地」です。ある人は思うかもしれませんが、このような罪を犯した人が滅んですっきりした！と。果して、イエスはそのように思われるでしょうか？

一人の罪人がそのいのちを落とすこと、地獄に行くことを神はどんなに悲しまれることでしょうか？だから、私たちが待っているのはそのさばきではありません。私たちが希望としているのはその先にあるすばらしい神の約束です。ですから、ここでは「主の日」が私たちの希望だとは言っていません。「神の日」が私たちの希望です。その意味が分かります。そして、その新しい天と地について、13節の初めは「新しい天と新しい地」ということばで始まっています。そのことを強調しているのです。そして、その「新しい天と新しい地」の特徴が二つ書かれています。

1) **新しい** : これは「質において、クオリティにおいて新しい」ということです。これまで知られているものとは似ていない全く違うものだということです。つまり、この新天新地は私たちが見たこともないし、思いついたこともない、想像もできないような、そういうものだと言います。

2) **正義の住む** : 「住む」ということばも「そこに宿る」ということですが、こういう意味があります。「定住などによってそこに落ち着いてそこを自分の家とすること、永遠の快適な住まいとすること」と。では、この新天新地においてだれがそのようなことをしているのでしょうか？それは「正義」だと言います。正義がそこを住まいとしている、正義がそこを憩いの場所にいると言うのです。なぜなら、そこには罪がないからです。汚れがないからです。そこには「義なる神」がおられるからです。

この「新天新地」、この約束を私たちはいただきました。13節に「私たちは、神の約束に従って、」と記されています。なぜ、私たちはそのような希望を持って生きるのか？私たちはそれが神の約束であることを知っているからです。「神の約束に従って、」私たちはそのようにできるのです。

また、そこに戻って来ました。この箇所でペテロが言わんとしたことは、次のように生きていきなさいと言って、どのように生きていくのかを教えてくださいました。そのためには私たちは神が言われたことを信じているかどうかです。神が「このようになる、さばきが来る」と言われたことを、あなたは本当に信じているかどうかです。ただ、頭で分かっているだけかどうか？そうではなくて本当に心から「そうだ！」と確信しているのなら、間違いなくそのことは行動となって出て来ます。

私たちは「神の日」を待っている、それはすばらしい新天新地であると、もし、そのことを本当に心から信じているなら、それにふさわしい行いが出て来ると言います。あなたの行いはどうですか？そのことをみことばは記しているのです。これは皆さんから希望を奪うためにこのようなことが記されているのではありません。逆に、希望を与えるものです。このような生き方を神は私たちに命じてくださった。ということは、このような生き方を私たちはできるということです。神の助けによってそれは可能なのです。そして、このような歩みを私たちがすることによって、私たちの周りの人たちに、私たちのすばらしい神の証を為すのです。

そのようにして生きていきなさい、さばきの日が近いから、神の日が近いからそうして生きていきなさいとペテロは教えました。私たちひとり一人、自分の歩みを吟味して、そして、もし、主があなたの心に働いて改めなければならないことを示してくださったなら、今がチャンスです。新しいスタートが切れるのです。このようにあなたは生きて神を証できます。そのように生きることです、皆さん！！そのような歩みをするなら、神の前に立ったときに神がお喜びになります。この人生は無駄ではなかったと、そのように神を誉め称えることができます。今日からまた新しいスタートを切れるのです。ごいっしょにその新しいスタートを切りませんか？

《考えましょう》

1. 「聖い生き方」を実践するにはどうすれば良いのかを記してください。
2. 「敬虔な人」として成長するにはどうすれば良いのかを記してください。
3. 「神の日に備えた生き方」について、ペテロの教えを記してください。
4. どうしてみことばの実践が大切なのかを記してください。